



選考委員特別賞  
那須正幹賞

うめぼし作つてあじくらべ

永犬丸小学校 二年

林 尚輝

今年はたくさんできた。おじいちゃんの家のにわに、うめがたくさんできた。ぼくはうめぼしが大きすぎた。だから、うめができたらうめぼしをつけよう、とおじいちゃんとやくそくをしていた。おじいちゃんがうめの木のえだを切りすぎて、何年かうめのみができなかつたからずつとまつっていた。

まず、図書かんに行つてうめぼしの本をかりてきた。むかしの人が、どうやつてうめのみを食べようかとかんがえて、うめぼしが生まれたということがわかつた。そして、作り方もしらべた。

六月六日、うめのみが三センチメートルより大きくなつて、黄色になつていたから、しゅうかくした。うめはぜんぶで百五十こぐらい。おじいちゃんも、こんなに大きなみがこんなにたくさんできたことはないと、うれしそうだつた。しゅうかくしたみを、黄色いうめとみどりのうめに分けた。黄色いうめからは、あまくていいにおいがした。いいにおいだつたので、食べてみたくなつた。でも、本に「おなかがいたくなる」と書いてあつたからやめた。一つ一つうめのみの「へそ」をつまようじでとつていつた。ちょうどめんどうだつた。

ふしぎに思つてゐることが二つある。一つは、うめぼしをつける時、どうして赤じそをつかうのだろう。青じそはダメなのか。もう一つは、びょう氣の時に、うめぼしはきんをころしてくれるからと言つて、おかゆといつしょに食べるけど、どのくらいきんをころす力があるのだろう。この二つのことをしらべてみることにした。

はじめに、黄色いうめとみどり色のうめ、赤じそと青じそのあじをくらべるために、四つの入れものにわけて

第9回  
△子供ノノイクシヨン文学賞〇

うめをつける。

Ⓐの入れもの：黄色いうめ

Ⓑの入れもの：黄色いうめ十赤じそ

Ⓒの入れもの：黄色いうめ十青じそ

Ⓓの入れもの：みどり色のうめ十赤じそ

よくあらつて、うめのみを三百八十グラムずつ入れものに入れた。えんぶんは十五パーセントにするので、しおは四十二グラム。うめのみにしおをすりこんで入れものに入れた。のこりのしおを上にかぶせた。ビニールぶくろに、水五百グラムを入れておもりにする。おいしいうめぼしができるといいな。

六月九日、うめずの高さⒶ黄色いうめ三センチ、Ⓑみどり色のうめ二センチ。「つけてからたつた一日でうめずが上がつてくるのだな」と少しごつくりした。そして一センチメートルもさがついたことにもおどりた。

六月十日、うめずの高さⒶ黄色いうめ四・五センチ。

Ⓓみどり色のうめ三センチ。つけてから二日で、黄色い

うめとみどり色のうめで、一・五センチもさがついた。

「黄色いうめの方が、うれているから水分が多くたのかな」と思つた。それから何日かは、時どき入れものをかたむけて、しおをとかした。

六月十四日、うめずの高さⒶ黄色いうめ五センチ。Ⓓみどり色のうめ四センチ。黄色いうめの方があくうめずがあがつた。これより多くはならなかつた。

においてはいつも食べるうめぼしと同じにおいがした。つばがでてくる。さわつたかんじはやわらかだつた。ふよぶよしていて、気もちがよかつた。うめずのあじ見もしてみた。ちょっとからかつたけど、もうすつばかつた。このまましばらく、すずしくてくらいところにおく。

六月二十日、カビをはつ見。すぐにすてておもりの水のビニールぶくろも新しくかえた。

六月三十日、またカビをはつ見。うめぼしをつくるのは、たいへんだなあと思った。ほすまでに、うめがなくなつてしまふかも知れない、しんぱいになつた。

七月十日、しそをつけた。ざいりょうは、赤じそ百グ

ラム、しお二十グラム、青じそ百グラム、しお二十グラム。はじめに、赤じそをきれいにあらつて、えだからはをとる。ボールでしそにしおをふってつよくもむ。赤じ

そのやさしいにおいがした。さいごに、出てきたあくをしばつて、この赤じそを③と④の入れものに入れた。同

じように、青じそもしおをふってつよくもむ。この青じそは、ぼくの家のにわにできた。赤じそと、においがちがつた。赤じそよりもにおいがつよかつた。青じそづけも、あくをしばつて⑤の入れものに入れた。これで、土用のうしの日ぐらいいの、天気のいい日までまつ。それまでに何回かうめやしそにカビが生えたので、かずがへつた。本とうにカビつて大へん。うめずにつかつてなくて、空気に当たつているところにカビが生えるみたいた。

七月二十七日、うめをほした。ボールに水をいれて、

一つずつカビをおとしてあらつた。ホワイトリカーデしょうどくして、キッチンペーパーでかるくふいてほす。うめどうめがくつかないように気をつけた。しそのはもいつしょに広げて、ゆかりもつくる。

七月二十九日、うめをそつとひっくりかえした。ふわふわして氣もちがよかつた。やぶれないよう気をつけた。おいしそうで早く食べたい。

七月三十一日、うめぼしのかんせい。つぎの日、かぞくでし食会をした。⑥の、しそを入れなかつたうめぼしは、とてもとてもすっぱかつた。⑦の黄色いうめに赤じそを入れたうめぼしは、⑧よりもすっぱさがへつて、食べやすかつた。赤じそそのいいにおいもした。⑨の黄色いうめに青じそを入れたうめぼしは、あじは⑩とあまりかわらなかつた。においは赤じそよりもよわくて、色もあり赤くならなかつた。しそを入れなかつた⑪の色にしている。⑫のみどり色のうめに赤じそを入れたうめぼしは、⑬よりにおいがすこしよわい。あじや色は⑭とあまりかわらなかつた。

しそには、すっぱさを少なくする力があると分かつた。赤じそは青じそよりいいにおいがして、色もきれいにそまる。かぞくの中では、⑮が一ばん人気だつた。⑯のすっぱさは、たまらない。おかあさんが、おとうさんのお

第9回  
△子供ノノイク・ヨシ文学賞〇

べんとうに入れる時、おとうさんはすぐに「今日はⒶのうめぼしだな」とわかる。

しかも、すりばちですりつぶしてゆかりをつくつた。ゆかりもかんせい。

さいごに、うめぼしのさつきん力のじつけんをした。

八月十九日、さとうの入ったかんてんを二つようする。一つにはうめぼしをのせて、もう一つには何ものせない。

八月二十一日、何ものせていない方にカビが生えた。うめぼしをのせた方は、赤くそまつたけどカビは生えていない。

八月三十一日、うめぼしを上においたかんてんには、まだカビが生えていない。うめぼしがすっぱいのは、クエンさんがあるからで、クエンさんにはきんをころす力がある。こんなにまだあついのに、カビが生えないのは、すごいと思った。このじつけんで、そのきんをころす力が、とてもつよいことが分かった。

うめぼしを作るのは、とてもたいへんだということが

分かった。カビとのたたかいだつた。でもたのしかつた。もつとすきになつた。こんな食べ方をはつ見したむかしの人のちえは、すごいと思った。こんどびょうきになつたら、ぼくとおじいちゃんが作ったうめぼしを食べて、元気になるぞ。